

# 日銀の視点

水戸市の弘道館や偕楽園が国の「日本遺産」に認定され、1年余りがすぎました。弘道館への入館者数は前年度比約3割増で、8万人を超えたそうです。水戸を訪れた知人を案内するなど、私もこの1年で3度訪れました。水戸観光では、旧水戸城跡の散策と合わせ、一番のお勧めスポットだと思っています。

日銀水戸事務所長 鶴屋 洋一郎

イトの方々が必ずいて、弘道館の歴史、大日本史編纂事業、水戸学、幕末期の天狗党争乱など、詳しく解説してもらえます。解説は基本を押さえつつも、ボランティアの方ごとに個性があるため、リピーターとして訪

ボランテアガイドの方々をはじめ市民の手で、さらに磨かれてきたよう思っています。水戸は東京から近いこともあり、梅祭りの時期など、偕楽園を中心に大勢の観光客が訪れる一方、滞在時間が短くこの結果、弘道館、彰

## 「大手門復元」に弾みを

しても日帰り観光の対象となりがちです。観光客にもう少し市内回遊をしてもいい、滞在時間を延ばし、飲食、宿泊へと結びつけていくことが課題です。もっとも、この1年で日本遺産指定だけでなく、三の丸歴史ロードの整備が進んだことで、弘道館から水戸城旧二の丸、本丸方面（水戸二中を経て水戸一高までの道筋）の景観が大きく変わり、かつての水戸城の面影をしのばせるものとなりました。

考館跡、旧水戸城薬医門といった観光資源が線としてつながり、観光資源としての魅力が増したように思います。実際、彰考館跡に足を運ぶ人も増えたのではないのでしょうか。歴史資源豊かな水戸の街を、さらに魅力あるものとするためには、先述の日本遺産に関する「ものがたり」を磨くことに加え、歴史的景観を取り戻すハード面の取り組みも重要です。昨年度から取り組みが始まった旧水戸城の大手門・角櫓の復元事業は、ぜひとも茨城国体、東京オリンピックの前に完成させたいものです。市民に広く募金を求めている一枚瓦城主運動は、昨年、好スタートを切りましたが、このところ勢いに陰りがみられていると聞きます。募金の再活性化などにより、市民の手で水戸の歴史的景観を取り戻していきま

(第2土曜掲載)